

1. 職名・氏名 准教授 松岡 孝恭

2. 学位 学位 博士（応用経済学）、専門分野 統計学、
授与機関 大阪大学、授与年月 2010年3月23日

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 統計学（2単位）1年次
②内容・ねらい [内容] 統計学と確率論の基礎を学び、推定や検定といった統計的推測の原理を習得する。 [ねらい] 以下の能力の養成：（1）確率の考え方を理解して基本的な確率分布について確率の計算ができる、（2）点推定、区間推定、仮説検定の原理を理解できる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面授業と遠隔授業のいずれの形態であっても、受講者に十分内容が伝えられるように以下の工夫を行った。（1）Webカメラを使って板書の内容や統計的推測に関する実験の様子を撮影・記録した。（2）撮影した内容を講堂のスクリーンに映し、対面で受講する学生にとって十分な受講環境を提供した。（3）講義終了後、記録した動画をGoogle Classroom上で配信した。これにより、遠隔授業の場合や対面で受講できない学生に対して講義を提供することができた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 計量経済学（2単位）2年次
②内容・ねらい [内容] 2つの変数の因果関係を分析する回帰モデルに関する推定と検定の手法を習得する。 [ねらい] 以下の能力の養成：（1）回帰分析の前提となる統計的な考え方が理解できる、（2）モデルから出てきた結論を理解して結果について解釈できるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面授業と遠隔授業のいずれの形態であっても、受講者に十分内容が伝えられるように以下の工夫を行った。（1）毎回の講義にホワイトボード（シート状のもの）を持参し、三脚を使ってWebカメラをシート上部に設置し、板書の内容を撮影・記録した。（2）撮影した内容を教室のスクリーンやTVモニターに映し、対面で受講する学生にとって十分な受講環境を提供した。（3）講義終了後、記録した動画をGoogle Classroom上で配信した。これにより、遠隔授業の場合や対面で受講できない学生に対して講義を提供することができた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位）2年次
②内容・ねらい [内容] オープンソースソフトウェアのPythonを使って、データを分析していくうえで必要になる様々な技法を実習形式で学ぶ。 [ねらい] 以下の能力の養成：（1）Pythonの基本的な使い方を知り、自分でプログラムが組めるようになる、（2）Web上の統計データからデータベースを作成できるようになる、（3）データ分析の内容を再現可能な形でレポートできるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 以下の工夫を行った。（1）ペアプログラミングやテスト駆動開発など開発の現場の習慣（アジャイル開発）を情報教育に取り入れる試みを行った（2）Web APIでデータを取得する方法を示した（3）データをプログラムの的に処理して経済レポートを書く方法を伝えた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
外書講読Ⅰ（2単位）2年次

②内容・ねらい

〔内容〕 総務省統計局が編集している **Statistical Handbook of Japan 2016** を読む。内容に関する議論を通して統計データの図表を読み解くと同時に、教科書には載っていないより詳細なデータや最新の統計データをプログラムを使って取得し、レポートを作成する手法を解説する。

〔ねらい〕 以下の能力の養成：（1）ハンドブックに収められた幅広いトピックに関するデータを観て日本経済のすがたをよく知る、（2）ハンドブックから経済データの示し方を学び、統計データを使って議論を展開する能力を養う、（3）様々なデータを総合的に判断して経済に関するレポートを書く力を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

以下の工夫を行った。（1）教科書の記述やグラフや表の理解に必要な経済学・会計学などの知識を解説し、受講者の理解を助けた（2）英字新聞などの経済記事を紹介し、統計データが経済の理解のために役立つことを示した（3）経済の見通しについてどう考えるか、というテーマを期末レポートに設定し、データや経済メカニズムなどを使って経済についての見通しを立てる訓練を行った。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅰ（4単位）3年次

②内容・ねらい

〔内容〕 自分で設定した経済に関する問題に対して統計データを使って答えを出す実証分析を行う。問題設定の仕方から参考文献表の作り方など具体的な論文の書き方まで、およそ論文を作成するために必要な知識を学ぶ。また設定した問題に対して答えを出す過程で必要となるデータ分析の手法を学ぶ。統計解析から得られた結果を分かりやすく論文にまとめるため、図表の作り方やプレゼンテーションの仕方を学ぶ。

〔ねらい〕 以下の能力の養成：（1）自らの問題を設定し主体的に研究する力を身につける、（2）論文の書き方を学び、構造的に分かりやすい文章を書けるようになる、（3）文献の読み方、論文を引用するマナー、参考文献表の付け方を身につける、（3）統計解析ソフトを使って、再現可能性のある実証分析を行えるようになる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

以下の工夫を行った。（1）統計データ解析ではフリーソフトウェアの **Python** を使って、データの取得、前処理、統計分析に至るまでの内容を解説した（2）受講生がテーマを決める際のプロセスに積極的に参加し、研究計画の重要性やコツなどを伝えた（3）論文の執筆をする際に、再現性のある形でプログラムの処理しながら書く方法を伝えた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅱ（4単位）4年次

②内容・ねらい

〔内容〕 演習Ⅰで取り組んだ実証分析の結果を踏まえて、より発展的な分析を行う。また、演習Ⅰで学んだ調査・研究の方法と論文執筆に関するノウハウを生かして卒業論文に取り組む。実証分析の手法と能動的に読み書きする能力を身につけ、現実のデータから意味のある結果を導くことを目標とする。

〔ねらい〕 以下の能力の養成：（1）基礎的な計量モデルを理解し、（2）自分の問いを軸に文献を読み、（3）分析結果を構造的にしっかりと論文にまとめ、（4）プレゼンで分かりやすく伝えられるようになる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

（1）分析テーマにあわせてデータを取得・加工し、分析するプロセスを受講者とともに進めた（2）統計データを分析するため **Python** のプログラムを書く訓練を行った（3）受講者の問題意識が経済学や統計学とどう結びつくか示して、論文のテーマの方向性を示した。

(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書
【 本】
②学術論文（査読あり）
【 本】
③その他論文（査読なし）
【 本】
④学会発表等
【 件】
⑤その他の公表実績 松岡孝恭、藤野秀則「プログラムを使って経済レポートを書こう—経済学と情報教育の融合—」 （YouTube、「福井県立大学（Fukui Prefectural University）」、2022年10月公開、 https://www.youtube.com/watch?v=oKUN11OdJzM ）。 松岡孝恭「DX時代におけるデータ利活用術」（福井県立大学経済学部 短期ビジネス講座 2022、2022年10月22日）。
【 2本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

オープンキャンパス学部企画のオンデマンド動画作成（【福井県立大学】経済学部 模擬授業「プログラムを使って経済レポートを書こう」、2022年10月公開）
短期ビジネス講座 2022（「DX時代におけるデータ利活用術」、2022年10月22日）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

学部予算・研究委員
オープンキャンパス学部企画運営委員
情報設備更新ワーキングチーム
教学 IR 部会 作業グループ（グループリーダー）

(3)学内行事への参加

入試説明会（仁愛女子高校、2022年9月13日）
福井県立大学開放講座（鯖江高等学校、2022年10月21日）

(4)その他、自発的活動など